

オモニ主日
説教

主に仕える我が家

＜ヨシュア記24：14～18＞

朴 愛 仙 牧師（今福教会）



今日は母の日の主日です。まず、教会に出席され、礼拝をささげている皆さん、お母様方の心に神様の平安が満たされ、健康と長寿に恵まれますよう主の御名でお祈りします。そしてお母様方に心から感謝申し上げます。本来なら私たちは毎日感謝すべきなのですが、なかなかできない現実があります。せめて母の日だけでも勇気を出して、お母様に感謝を表現したいです。遠くにお母様が住んでおられるなら、電話をかけ感謝の気持ちを伝えましょう。すでにお母様が亡くなっているなら、お母様の愛を思い起こして偲び、お母様と共に過ごせた時間を神様に感謝しましょう。

本日の御言葉のヨシュア記24章は、モーセの後継者として荒れ野の最後の旅を導く指導者ヨシュアが、カナンの地を征服した後、神の民に残した遺言の言葉です。ここに記されている内容は、ヨシュアと神の民イスラエルとの「シケム契約」とよばれています。シケム契約の内容は、モーセが命じた律法を守ることの再確認と、12のイスラエル諸部族が一致して神に仕えるべく一つに結束するための誓約です。特に、本文の14節から18節までの約束は、ヨシュアの促しと民の決断が繰り広げられ、私たちの祈りと願いである「私と私の家族は主に仕える」為の祈りの励みとなるものであると思います。それでは、神様のみに仕えるという決意が維持され続ける為に、民達に必要な正しい従順の真の姿勢が何なのか調べてみましょう。カナンの地の神々を礼拝するのか、荒れ野を導いた聖書の神を礼拝するのか、または両方の神々を礼拝するのかが問われているのです。

（1）仕える方を正しく知り、その他は捨てる姿勢

私たちが仕え、礼拝する対象は、私たちを造り、導き、保護する神様なのです。「捨てる」とは、「他の神々を除き去って」「去る」「廃止する」「終わる」等を意味します。これまでの間違った行為を止めて、去っていくことを言います。当時イスラエルの民は完全に偶像から離れたわけではありませんでした。それで、ヨシュアはただ神様のみに仕え、畏れ敬わなければならぬと強く大胆に叫びました。ですから、神様の子どもになった者は、いろんな神々に拝んだりするという姿勢をとらないということです。悔い改めて、荒れ野を導いてくださった神様のみに礼拝しなければなりません。捨てなければならないものを捨てることが神様に仕える最初の正しい姿勢です。

我が家にもこの約束を信じ、生きてきた人がいます。義理の母です。

彼女は、長男の嫁として嫁いできました。家はノンクリスチヤンの家でした。当然、法事もありました。その後、彼女はクリスチヤンになりました。最初は法事をしながら、教会に行きました。何十年も信仰を守り祈りながら、苦しみながら法事をしたと悔っていました。それから、法事も捨てて、

「ただ私と私の家族は神様に仕える家庭」であるように祈り続けました。その結果、神の恵みの中で義理の父も救われ、召されました。今は、3人の牧師、長老、執事の母として、また教会学校の先生、神様を賛美する聖歌隊員の祖母として、毎朝毎晩未だ救われない子ども、孫、ひ孫たちの為に祈り続ける方です。目は悪いけれど大きな声で聖書を読み、賛美歌を歌いながら喜ぶ94歳の義母には頭が下がります。

（2）誠実と真実で神様に向かいあう姿勢

私たちはこのヨシュア記を通して、約束に真実な主をもう一度しっかりと見上げたいと思います。生きておられる神様に対する真実な従順は、心から出て来なければなりません。ヨシュアはあなた達イスラエルの先祖が川の向こう側やエジプトで仕えていた神々を除き去って、主に仕えなさい。誠実と真心で神に来るよう勧めました。神は誠実と真心で仕える礼拝を望んでおられます。イエス様がサマリアの女性に会ったとき、「神は靈であるから、礼拝をする者も、靈とまこととをもって礼拝すべきである」言われました。私達の中にある間違ったものを捨てたら、正当なものに向かって心を傾ければなりません。信徒たちが、まさに顔と耳を、そして心を神様のみに向けるとき、神様に正しく仕えることができるのです。

（3）行いで仕える姿勢

神様を信じて従うには、いつも行いが伴います。信仰と行為は共に一致しなければなりません（イペテロ1：17）。

「仕える」は、「労働する」、「奉仕する」、「礼拝する」、「崇拜する」等を意味します。神に仕える人は労働の汗が溢れ、奉仕と礼拝が伴わなければなりません。

「捨てる」ことは難しく、「向かう」ことも容易ではありませんが、最終的に神様のために汗をかいて働いて仕えなければなりません。信徒は、神に仕え、まずは罪の姿を「捨てて」、神に「向かって」、心を傾けた後に「汗をかき、力強く」仕えなければならぬのです。これが神様に正しく仕える姿勢です。

信徒の皆さん！ 真の礼拝は、仕える方を正しく知り、その信仰の対象を誠実に心から礼拝し、それに応じた行動があるときに行われます。その真実な主の前で、私たちの歩みはどうなのか。もし そこにふさわしい応答の生活がないなら、悔い改めて、私たちも主に真実な歩みをささげて行くことができますように。主との関係を妨げるいかなるものをも除き去り、主だけを愛し、主に心を傾ける生活ができますように。その主に私たちのすべての信頼を置いて、主の真実と力強い御手によって導かれる神の民の特権と喜びと真に幸いを感じながら、「私と私の家族は主に仕える我が家」として歩みへ導かれてみたいと思います。

信仰講演会を開く

主題「ルネサンスと宗教改革期の基督教美術」

2023年4月16日主日の午後、久しぶりに関東地方会伝道部主催の講演会が、東京教会で行われた。

テーマは「ルネサンスと宗教改革期の基督教美術」で、講師として基督教大韓監理会からドライ宣教師として在独29年の経験があり、基督教美術史専門家である林載勲牧師を招き、ヨーロッパのルネサンスと宗教改革時代の美術品や教会堂建築物における、当時のカトリック教会やプロテスタント教会の信仰の様子を多く学ぶ時間となった。



2022年度卒業式を挙行

2名の神学生が本科を卒業

2022年度関西聖書院卒業式が3月19日午後3時、本校舎(大阪北部教会)にて挙行された。今年も昨年に続き、まだコロナパンデミックの収束が見えない中、主に在学生と卒業生、関係者を中心に集い、卒業式を挙行した。

卒業礼拝は本神学院の教務である趙永哲牧師(大阪北部教会)の司会で始められ、関西地方会長代行である朴栄子牧師(豊中第一復興教会)が「あなたは何をしますか?」というメッセージを伝えた。その後、引き続き学院長金武士牧師による卒業証書授与式があり、最後に、本神学院の理事長である全聖三牧師(布施教会)の祝祷で卒業礼拝を終えた。

今年度に卒業した神学生は本科の卒業生として宋承美(大阪教会)、姜明美(大阪北部教会)2名であった。彼女らは本科を卒業してから研究科に進むと同時に、それぞれ教会や社会において大きく用いられたいという抱負を語った。



関西聖書神学院は1984年に在日大韓基督教会で設立された人材養成、教会奉仕のための信徒教育と訓練、そして神学形成のため関西地方会を中心に設立され今日に至っている。

(報告:趙永哲牧師)

第3回常任委員会開く

第56回総会期第3回目の常任委員会が、去る2023年4月11日KCC(大阪)で開催され、常任委員24名の中、17名、特別委員長3名が出席して各種報告や案件審議などが行われた。

- 審議され、決議された主な献議案は以下の通りである。
- ①海外で起こる大災害時など支援のために「災害基金」の必要性があり、全国教会から送られた「クリスマス献金」から毎年20万円ずつ積み立てること。
 - ②第57回定期総会標語を「乾いた地に恵みの泉が湧く教会」(イザヤ44:3)に決定。
 - ③信徒委員会の活発な活動のために年間予算を10万円から30万円増額することを財政委員会に委ね、第57回定期総会に上程すること。
 - ④新韓日讃頌歌の第3版印刷の際、韓国での販売の見込みを「韓国長老教出版局」との交渉を前向きに検討すること。
 - ⑤救済基金委員会の規則改定を第57回定期総会に上程すること。
 - ⑥次回の常任委員会は2023年9月15日(金)11:00、東京教会で開催すること。

ベトナム人青年と讃美交流

アジア系住民宣教に取り組む第一歩

青年会全国協議会(全協)は、関西地方個教会訪問の一環で3月19日に平野教会(金鍾權牧師)の夕拝に出席して、ベトナム人青年会と共に讃美の機会を持った。当日は平野教会信徒と全協役員など合わせて50名が参加して交流は大いに盛り上がりを見せた。

特に圧巻であったのがベトナム人青年たちの奏でる讃美の美しさであり、移住民一世として厳しい生活状況にもかかわらず、信仰が青年たちの生きる力となっていることが伝わる感動的な機会となった。また礼拝では青年たちの証もあり、神さまと誠実に向き合う姿勢は胸打つものばかりであった。

平野教会の存在はベトナム人青年たちにとって貴重な神様の家となっており、伝道の甲斐もあって大阪府下はもとより神戸や滋賀など幅広いところからベトナム人青年たちが参加している。教会をはじめ青年たちは、将来的なベトナム人教会コミュニティ形成の一環として指導者養成もめざすなど精力的に取り組んでおり、多民族共生・多様性尊重のために21世紀のアンテオケ教会創りをめざす全協やサポートする信徒委員会ともビジョンを共有する絆が深まる交流となった。

全協からは継続して交流を希望すると共に、11月に開催される全協創立60周年記念大会に讃美披露を打診するなど、青年レベルでのアジア系住民宣教に取り組む記念すべき一歩となつた。

(報告:梁陽日信徒委員長)



復活節讃美礼拝開催

トルコ・シリア地震災害者支援に献金

4月9日(主)にイースターフェスティバル第22回復活節合同讃美礼拝が西部地方教会女性連合会と西部地方会信徒部の共催で神戸教会堂にて開催された。コロナ禍のため5年ぶりの開催となったが、リモートも含め11教会90名が参加した。

第1部の開会礼拝では梁榮友牧師(武庫川教会)による「最高の恵み」(マルコ16:1~8)のメッセージがあった。

第2部は各教会のパフォーマンス発表で、遠方の教会は動画をとおして讃美や笑顔を会場に届け、対面では各教会による讃美や子どもたちの聖句暗唱、ダンスなどがあった。さまざまなパフォーマンスをとおしてイエス・キリストの復活を喜んだ。

韓承哲牧師(神戸東部)の祝祷のあと、梁律子会長の挨拶があり、この日の献金をトルコ・シリア地震被災者支援のために捧げるという報告があった。まだ大人数での愛餐会は難しいので、おにぎりとパンのおみやげをもらって復活の喜びと共に家路へ向かった。



(報告者:崔美恵子)

第71回定期大会を開催 大会後に「死と天国」主題で講演会

関東地方教会女性連合会第71回定期大会が、3月21日（火）ハンサラン教会において10教会の代議員28名中22名の出席で開催された。開会礼拝では金根湜牧師（ハンサラン教会）による「 내가 불러 시키는 일을 위하여 세우라」（使徒言行録13:1～3）という題目で説教があり、聖餐式が李恵淑牧師（愛の伝道所）の司式で行われた。郭恩珠牧師（センムル教会）の祝祷で開会礼拝が終わった。

会長の金恵珍長老の司会で行われた議事は、各部報告、個教会女性会の活動報告、予算案審議などで進行され、承認された。

今年度は役員改選がないため講演会の時間が設けられ、講師に鈴木崇巨牧師を招き、「死と天国」の題目の講演があった。講演会の途中に権初恵長老（船橋教会）による小顔づくりのリラックス時間も持った。

（報告：李敏禮）



第63回定期大会を開催 久しぶりに昼食会開き親交を深める

去る4月6日（木）、豊橋教会にて中部地方教会女性連合会第63回定期大会が5教会の代議員25名中25名全員の出席で開催された。限られた代議員ではあるが、久しぶりに豊橋教会から用意された美味しい昼食を分かち合った。

開会礼拝は、金成彦牧師（豊橋教会）により、「慌てるペテロ」（使徒10章9～18節）という題目にてメッセージ、蔡銀淑牧師（大垣教会）による聖餐式の後、金成彦牧師の祝祷をもって終わった。

議事には開会宣言の後、来賓の紹介（金明均牧師、金成彦牧師、全炳玉牧師、蔡銀淑牧師、権潤日牧師）があり、前会議録、委員会報告は書面による承認を受け、各部報告、各教会報告、会計報告がなされた。その後2022年度の活動を写真で振り返り、次回の定期大会の場所を名古屋教会と確認して議事を終了した。

閉会礼拝は、石橋真理恵伝道師（全国教会女性連合会総務）により、「財産を預けた主人」（マタイ25：14～19）という題目でメッセージ、蔡銀淑牧師による祝祷と李正子会長の閉会宣言によって定期大会を終了した。

今大会ではコロナ禍で長くできなかった昼食、聖餐式を行い、また懐かしい顔に再会できた。何よりも初参加の代議員があったことは喜びであり、全てを整えてくださった神さまに感謝する。

（報告：兼松峰代）



第70回定期大会を開催 39名が出席して審議し、全て承認

3月25日（土）大阪教会において関西地方教会女性連合会第70回定期大会が12教会45名の代議員中11教会39名の出席で開催された。

開会礼拝は関西地方会長の朴栄子牧師（豊中第一復興教会）による「奇跡を呼ぶ愛の関係」（ルカによる福音書5：17～25）という題目の説教がなされた後、朴愛仙牧師（今福教会）の司式のもと聖餐式が執り行われた。

議事は金仁姫会長を議長とし、朴栄子牧師、裴良一長老（文

面）、宋福姫勧士（映像）、権玉華「セッシンの家」理事長（文面）の祝辞の後、各種報告と予算案などが審議されすべて承認された。

主の恵みの中で大会が無事終えられたことに感謝する。

（報告：千末仙）



第36回定期大会を開催 コロナ禍以前の活動を進めるよう確認

西部地方教会女性連合会第36回定期大会が4月13日（木）午後1時より明石教会堂で開催された。今年はリモートを含め5教会から代議員14名、陪席8名が出席した。

開会礼拝は尹豊子副会長の司会で韓承哲牧師（神戸東部教会）から「私たちを祝福する神様」（民数記6：22～27）のメッセージがあり、続いて聖餐式と共に与った。

梁律子会長の開会辞のあと開会宣言がなされ、出席者と来賓の紹介を行った。続いて石橋真理恵伝道師（全国女性会総務）の祝辞があった。議事に入り、総括報告と決算報告などがあり、献議案として非常事態時の定期大会開催についての憲章追加などが討議された。年度予算案が承認され、2023年度活動方針案に対して、コロナ禍以前のように活動できるよう進めていくことが確認された。

閉会礼拝は梁律子会長の司会で、尹鐘憲牧師（明石教会）から「神の聖靈に導かれる人」（ローマ8：14）のメッセージがあり、祝祷をもって閉会した。

（報告：崔美恵子）



第66回定期大会を開催 新会長に朴賢淑勧士（福岡）を選出

4月22日（土）13時より3年ぶりに小倉教会にて第66回定期大会が6教会の代議員18名中16名出席、5名の陪席で対面開催が実現した。長い期間のコロナ禍で西南女性会としての活動が自粛を余儀なくされ試行錯誤を重ね、喜びの日を迎へ感謝しかなかった。

開会礼拝は、李恵蘭牧師（折尾教会）により「十字架のそばで」（ヨハネによる福音書19章25～27節）という題目でメッセージを頂いた。

今期は委員改選があり、以下のメンバーが新しく組織された。

会長：朴賢淑（福岡）副会長：任永淑（折尾）

書記：卞恩珠（福岡）副書記：鄭閨姫（福岡中央）

会計：梁晶子（小倉）副会計：李好子（小倉）

宣教部長：韓榮蘭（福岡）教育部長：李亞紀子（宇部）

青年部長：許喜順（下関）社会部長：菅原幸子（下関）

規約部長：金瑪璃（福岡中央）財政部長：洪西映（福岡中央）

そして献議案として一部の規約改正が上程され、会長と副会長の年齢を70歳以下から70歳未満に改定。非常事態時における会議の開催の条文が追加されて承認された。

閉会礼拝は、朴賢淑新会長の司会のもと朱文洪牧師（小倉教会）より「渴くものよ」（ヨハネによる福音書19章39節）のメッセージがあり祝祷をもって閉会した。

（報告：李好子）



特別連載
31923ジェノサイドの記憶と十字架の信仰(3)
—関東大震災朝鮮人虐殺100周年を迎える—

金性済牧師(日本キリスト教協議会総幹事)

<3>証言:人々が見た虐殺

関東大震災朝鮮人虐殺に就いての膨大な証言の中からいくつか拾ってみよう:

1. 「大じしんのおはなし 西村喜代子(麻布区本村尋常小学校一年生)

大じしんのとき、わたくしはいいぐらにいました。……(翌9月2日-引用者)みんなで本村のほうにげてきました。本村のしんるいのおいければ、ぢわわれがしてお水がきたなくなっていました。また、それからゆうがたになつたら、○○○○○○○○(ふていせんじん-引用者)がせめてくるからとおまわりさんかいいにきました。」(琴秉洞『関東大震災朝鮮人虐殺問題関係史料I 朝鮮人虐殺関連児童証言史料』299-300頁 “カタカナ”原文を“ひらがな”に変換:引用者)。

この子どもの作文から、9月3日午前に“不逞鮮人暴動”虚偽電文が船橋海軍送信所から全国地方長官に発信されるに先立ち、9月2日の段階で、官憲が流言飛語を拡げている実態を知ることができる。

2. 「さう、かうしてゐる間に所謂流言蜚語が潮の如く近隣に流れ込んで来た。……『朝鮮人が綿に石油をしませて、放火して歩いてゐる。東京の火は大半其だ相だ、そして、井水の中へ毒薬を投じて日本人を殺害する覚悟だ相だ。』誰の口からともこんな恐ろしい言葉が私達の村へも入って來た。私は心中でそんな莫迦な事と一笑に附してゐたが、村の人々の心は、もう事の是非真偽(ママ)を判断し得る様な心の冷静さは勿論なかつた。電波の様にその事は近所近辺に広つた。いやが上にも村民の心は緊張してゐた。

在郷軍人、青年団、消防夫、は皆身を堅めて村の辻、要所に異様に光る鋭い目を輝かし乍ら通る人々を詰問した。チンリンの町村からはしきりに根拠のない報告が伝えられた。

『××村では、井の中へ毒薬を投じ様としてゐる所を捕へられた相だ』『○○町では何十人隊を組んで強盗に來た相だ』『今△△村の方から何十人此の村へ入りこんで来る』こんな報知に自警団の人々は力こぶを入れて待ち伏せてゐたが、勿論の事猫の子一匹もかからなかつた。私は其が本当だと思った。

そのような半狂乱的な殺氣の漲った空気は私の村では七週間ばかりも続いた。」(姜徳相他『現代史資料6 関東大震災と朝鮮人』183頁)。

この証言は、本当に事実が確かめようともせず、陶酔するように信じ込み、集団から集団へと広がる流言飛語の恐ろしさを伝えてくれている。

3. 次は、当時、19歳で千駄ヶ谷に住む早稲田大学聴講生であり、後に演出家となった千田是也の証言である。

「……若い者は自警団に出ろというので、私も登山杖を持って、向かいの大学生といっしょに警備に当たることになった。待っているのもどかしくなり、偵察のため千駄ヶ谷駅の線路の上に登って行った。すると内苑と外苑をつないだ道路(当時は原っぱだったが)の方から、提灯が並んでこっちにやって来るのが見えた。あつ、不逞朝鮮人だと思いつ、その方向へ走つていった。不意に私は、腰のあたりを一発殴られてしまった。驚いてふりむくと、雲をつくような大男がいて『イタア! チョウセンジンダア!』と叫んでいる。……私はしきりに、日本人であることを訴え、早稲田の学生証を見せたが信じてくれない。興奮した彼らは、薪割りや木剣を振りかざし『あいうえおを言え!』『教育勅語を言え!』と矢継ぎ早に要求してくる。この二つはどうにか切り抜けたが『歴代天皇の名前を言え!』と言わされたときはさすがに困った。こちらは中学を出たばかりだか

ら半分くらいしか覚えていない。

もうダメだと覚悟したとき、『なんだ、伊藤(本名)さんのお坊っちゃんじゃないですか』という声がした。それは日曜学校でいつしょだったころの知り合いだった。この一声で私は救われた。

それにしても、私は殺られずに済んだが、ちょっと怪しいというだけで、日本人も含めた罪もない人々がいつたい何人殺されたのだろう。」(西崎雅夫『関東大震災 東京地区別1100の証言 朝鮮人虐殺の記録』157-158頁)

彼は自分の名前について、以上の恐怖体験を千駄ヶ谷で体験したことから「千田」と、そして“朝鮮人”に間違えられ、危うく殺される体験をしたことから、“朝鮮Korea”から当て字の漢字を使って「コレヤ」と名乗るようになったといわれる。

4. 「虐殺の惨状 河原広場に韓人を多数捕集し幾千又は幾百人宛乱射刺し兵営又は警察署構内に幾百、幾十人宛集合して殺害し尚街上にて見当たり次第兵隊乃至警察官の銃殺、刺殺したものは寧ろ普通の殺人手段とも名くべし所謂自警団青年団等は『朝鮮人』と叫ぶ高声に一呼百応して狼の群れの如くに東西南北より集り来り一人の吾が同胞に対して数十人の倭奴が取り捲きつつ剣にて刺し銃にて射棒にて打ち足にて蹴り転がし死せしものの首を縛り曳きずりつつ猶も刺し蹴りつつ屍体にまでも凌辱を加へたり、婦人等を見れば両便より左右の足を引き張り生殖器を剣にて刺し一身を四分五裂にしつつ女子は如斯にして殺すこと妙味ありと笑ひつ、談話せり、吾同胞を電車軌橋下に首を吊し其の両足に綱を付け左右より多人数は綱を取り信号をなしつつ呼応して『ぶらんこ』の如く振り動かして殺したるものあり……」(『虐殺と題する不穏冊子に関する件』<朝鮮総督府警務局 大正十三年三月二十二日 高警第九五一号>に記録された「虐殺」四千二百五十七年一月 調査員一同告白 右代表 金健 所収:姜徳相他『現代史資料6 関東大震災と朝鮮人』331頁)

これら数限りない証言を一つひとつ読むたびに、私は「わたしは自分の望む善は行わず、望まない悪を行っている。もし、わたしが望まないことをしているとすれば、それをしてているのは、もはやわたしではなく、わたしの中に住んでいる罪なのです」(ローマ7:19-20)という、人間の罪の実相についてのパウロの洞察を思い起こしながら、人間の現実を思いめぐらさずにおれない。そして、カヤバの官邸に引かれていくイエスが三度イエスを否認したペトロを振り返られたまなざし(ルカ22:61)について沈思する。



自警団員が通行人を誰何している図。非常線が張られている。
(姜徳相他『現代史資料6 関東大震災と朝鮮人』所収)